

# 「忠類村議会のあゆみ」発刊を祝して



幕別町長

岡田 和夫

このたび、旧忠類村議会の歴史が集大成された「忠類村議会のあゆみ」が発刊されますことに心からお祝いを申し上げますとともに、本町にとって大変意義深い事業であり、編集にあたられました関係各位のご努力に対し深く敬意を表します。

忠類村の村づくりは、昭和二十四年八月二十日、大樹村からの分村により始まりました。さかのほれば、明治二十七年に丸山山麓に開拓の鋤が下ろされてから五十五年目のことであります。

この年の九月十七日に十六人の議員による第一回の村議会が開催されましたが、満足な公共施設もなく、神社の社務所を議場として開かれたとのことでもあります。

開村後の村づくりは、一自治体として基本的な基盤整備が急務であるものの、村の財政は乏しく、さらには、「昭和の大合併」の大波が到来するなど、まさしく試練の道でありました。

こうした中で村議会は、村民の代表とし

て、常に忠類村のあるべき姿を志向し、その実現のためにご尽力されました。

このたび発刊されました「忠類村議会のあゆみ」は、これまでに果たしてきた村議会の大きな役割とともに、その時代時代にご活躍された議員の方々のご苦勞と村づくりにかけて熱心な議会活動の一端がうかがえ、あらためて敬意と感謝の念を深くした次第であります。

合併に伴い、開村以来延べ百七十六人の村議が議論を交わした忠類村議会は幕を閉じましたが、半世紀余にわたった村づくりへの熱い思いは、脈々と新幕別町に受け継がれていくものと確信いたしております。

終わりに、本議会史が今後のまちづくりを進める上での貴重な指針として活用されることを祈念いたしますとともに、編集、発刊に携われました関係各位の更なるご活躍をご期待申し上げます、発刊に寄せるお祝いの言葉といたします。

平成十九年十月

